

河内村にてフジミドリシジミを採卵

吉村 久貴

直海谷を逆行して上流に向い、<sup>わか</sup>内尾千丈温泉を過ぎると道が悪くなる。荒れ放題の道を更に進むと「<sup>わか</sup>奥三方岳、奈良岳登山口」の道標がある。道もここまでで、先はない。付近にはブナが無数に立ち並んでおり、当然フジミドリが生息するような環境である。

本年(1983)11月3日、単独でここを訪れた際、登山道脇のブナの下板よりフジミドリシジミ卵を得たので報告する。

付近はひっそりとし、シーンと静まりかえり、クマの出現が怖くて、長時間の採卵はしても一人ではできない意があったので、手頃な枝(1m位の長さ)を5~6本持ち帰り、後日、卵を採してみた。

その結果、2生卵、4孵化殻が得られた。

また、登山口より30分程登ったブナ茶屋まで行けば、ブナの純林となるので、会費諸氏の調査をお願いしたい。

参考 石川の山と自然

宮誠而監修(1979)

32 奥三方岳と奈良岳 p.100

1982年の撮影記録から

竹谷 宏二

少々古くなるが、1982年における蝶撮影行で確認した種類の中から主なものを報告する。

なお、以下の記録はすべて目撃あるいは写真撮影で確認したもので、採集はしていない。

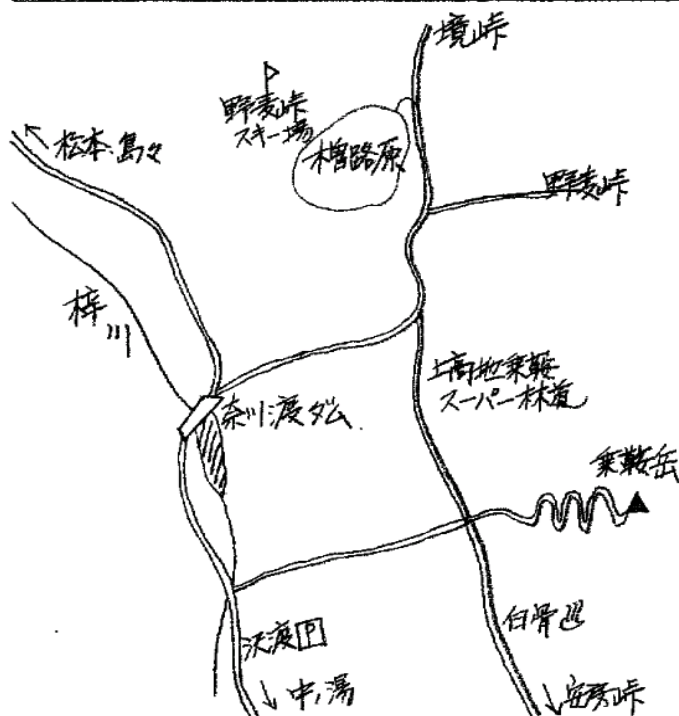
- 4月25日 石川郡吉野谷村下吉野 (雲竜山中腹)  
ギフチョウ 2exs, ツマキチョウ, ミヤマセセリ,  
レドシチョウ, アカタテハ, キタテハ.
- 5月5日 小松市丸山町  
ギフチョウ 2exs, サカハチチョウ, トラフシジミ  
石川郡鳥越村阿手  
スキタニルリシジミ 1ex
- 5月16日 石川郡河内村板尾  
ミヤマチヤバネセセリ 6exs, スミナガシ 2exs,
- 5月24日 鳳至郡門前町樽見 ~ 輪島市上大沢  
ベニシジミ, トラフシジミ, ダイミョウセセリ,  
アオバセセリ, コミスジ
- 6月6日 石川郡吉野谷村中宮  
ミスジチョウ 1ex
- 6月19日 石川郡吉野谷村中宮  
クキシジミ 1ex, アサマシジミ 4羽 3羽
- 6月20日 金沢市医王山  
フジミドリシジミ 1ex
- 6月22日 石川郡鳥越村下野  
アカシジミ 1ex.
- 6月29日 江沼郡山中町我谷  
ホシミスジ 1ex.
- 7月3日 江沼郡山中町風谷  
ウラゴマダラシジミ 1羽, ホシミスジ 2exs,  
ミスジチョウ 1ex.
- 7月6日 鳳至郡柳田村柳田  
オオヒカゲ 1ex.

- 7月30日 石川郡音野谷村中宮  
シータテハ 1ex.
- 8月18日 石川郡尾口村岩間温泉  
ツマジロウラジマ 1x 5exs. キベリタテハ 1ex.  
ミドリシジミ 5群
- 石川郡尾口村東荒谷  
オナガシジミ
- 8月29日 石川郡河内村内尾〜築池  
オナガシジミ
- 9月30日 石川郡尾口村岩間温泉  
シータテハ 1ex.

以上.

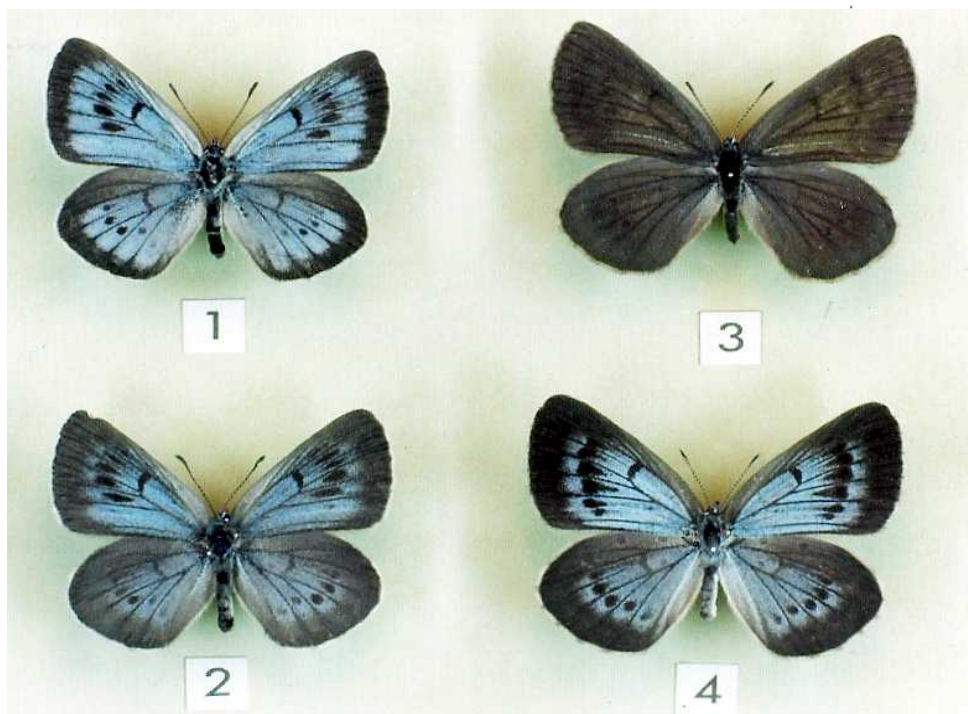
長野県木曾路原のゴマシジミ

吉村 久貴



本年(1983)8月10日〜13日にかけて、長野県下へゴマシジミ、バニヒカゲを求めて採集に出かけた際、奈川村木曾路原で多数のゴマシジミを採集した。

10日に吉岡氏と共に北信越校長会に出席する父を送って、上田市別所温泉まで行き、乗りかてら松本市美鈴湖で、Catocala (オニベシタバ、マメキシタバ) 材ヒカゲなどを採集して松本のM氏宅に泊った。



№1~3 長野県奈川村木曾路原 1983. 8. 11 採集  
 №4 岐阜県高山市原山 1983. 8. 13 採集

11日朝、東京より特急「あずさ」で駆けつけた弟と3人で、奈川村木曾村方面へ。ゴマシジミ、タテハ類を求めて出発。

奈川渡ガムで休憩後、境峠方面に向った。野麦峠への分岐点を通ぎてしばらく行くと、木曾路原の別荘分譲地に着いた。

宅地造成と道路整備があちこちでされているが、残されたわずかな草地にフレモコウが咲いていて、ゴマシジミが飛び回り、吸蜜するのが見受けられた。さっそく採集を始めた。

ここのゴマシジミは、写真に示した如く、開田高原などで見られるものと同様、青斑の非常に発達したものから、発達の弱いもの、クロシジミの様に真黒な年まで様々で、変異がおもしろい。(写真№1~3が木曾路原産、№4が高山市原山産)

ゴマシジミの他には、コキマダラセセリが採集できた。少し先の野麦峠スキー場では、吉岡氏がC-タテハ、筆者の弟がL-タテハなどを採集した。

先にも書いた様に、別荘地としての宅地造成がさかんに行なわれているため、いずれゴマシジミが絶滅するよう思われるので、採

集めたい方はお早めに。

なお、帰りに境津を越えて木曾駒高原、寝覚の床の方まで足を伸ばしてみたが、ムモンアカシジミの採集はできなかった。

ノコメがあった

金子 二久

ノコメキシタバはズミの生えている高原状の地に採れるカトカラである。長野県が主産地であるが、富山、福井両県にも記録がある。さて、今夏雨で暇な折、以前から気になっていた箱から海小んばかりのゴマシオキシタバを整理する気になった。

箱一杯の翅を重畳合せて並んでいるゴマシオは、考えただけでうんざりする。

その最密充填のを気をつかいながら抜いていると、その中から、ノコメが出て来たではないか。dataは'81-9-18 津、瀬。

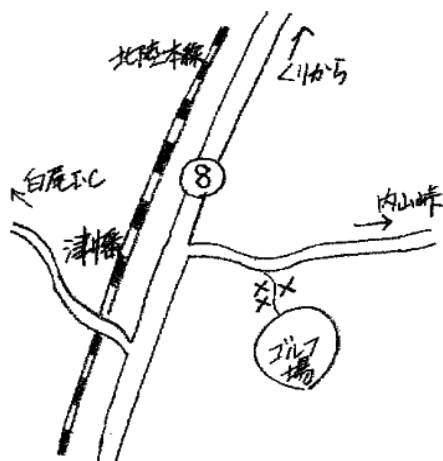
丁度アズミを採り竟気上り、毎晩の様に山の水銀燈の下をうろつぎ廻っていた頃だ。

ふと、あの頃がなつかしくなった。持っていないのがあと三種になってしみると、何か残務整理という感じになり、気がのらなくなった。

チャット取っ払い話だが、ここに報告しておく。

津幡町で *Catocala* 3種を採集

吉村 久貴



本年(1983) 8月4日、8月6日の両日、河北郡津幡町大坪(石川ゴルフクラブ)方面へ採集に行った際、*Catocala* を数種採集したので報告する。国道8号線より内山峠の方へ折れて、しばらく行くと、石川ゴルフクラブに至る道の入口がある。

この道の両側には、クヌギがたくさん残っており、樹液には無数のミヤマクワガタやカナブンが集まって

きている。

この木よりセミの様な虫が飛び出し、木から木へと飛び回るの  
よく見ると、Catocalaであった。

Catocalaは、夜間の燈火採集が主であり、昼間にこのような光景  
が見られるとは思わなかった。

さっそく、ネットで採集してみたところ、オニベニシタバ、イシロ  
シタバ、マメキシタバの3種を得ることができた。

その他、カラスマゲハ、モンキアゲハ、ナミアゲハ、ルリタテハ、スミナガシ  
ルリシジミ、ゴイシジミが目撃された。

また、ミヤマクワガタ、カブトムシ、スジクワガタも採集した。

## 釈迦道(白山湯, 谷)でのベニヒカゲの記録

吉岡 繁

1983年8月8日(月)、筆者をはじめ吉村氏、友人のM氏の3名は、  
カマリ2000GTを駆使し、白山釈迦道へアサギマダラを求めて出かけた。  
当日の天候は晴れで、風はあまりなかった。

1980年にアサギマダラを産したポイントは、今は西影もなく  
時折、見かけるだけであったが、半日で10数頭採集することができた。

その代わり、ヒョウモン類の数は当時より多く感じられ、2~3種  
採集した。

ところで、この日採集したものの中で、特に記しておきたいのは  
ベニヒカゲである。ベニヒカゲは、北海道、本州の1,500m以上の  
高山帯に産し、標高の低い産地では、出現時期が遅くなる。

県内では白山一帯に産し、銚子ヶ峰、三ヶ峰、別山、基、助ヶ坪  
殿ヶ池ヒュッテ上部、白山釈迦道頂上など、標高1,800mあたりに  
生息するが、釈迦道での採集地点は、標高1,300mぐらいと比較的  
低い。

おそらく釈迦道が、谷向こうの観光新道の屋根から降りてきたもの  
と思われる。ただし、吉村氏の話では、今回の個体は時期的に早  
いものであると思われるので、報告しておく。

また、吉村氏は、伐採した材木を集めておく広場に生えているブ  
ナの木で、ヒゲナガゴマフカミキリをゴッぽり採集して帰った。

尚、当日、松井御夫妻があとからジープで登ってこられたが、ア  
サギマダラは採集できなかったとか。これは、誰の責任かは定かでは  
ない。

採集データ 1983年8月8日 石川郡白峰村湯ノ谷

ハニヒカゲ	1♂	吉岡	象(採集)
アサギマダラ	18♂♂	吉岡	象、森川精二
ウラギンビョウモン	2♀♀	吉岡	象
林ウグイスジロウモン	3♀♀	吉岡	象
ミドリヒョウモン	4♂♂	吉岡	象、吉村久貴
ヒゲナガボアカミキリ	多数	吉村	久貴
ヒメオオクワガタ	2♂♂1♀	吉村	久貴

1983年度 医王山でのZephyrus採集記録

吉村 久貴

最近、医王山でのZephyrus採集がブームになり、フジミドリまでが多数ネットされたと聞き、本年(1983)、フジミドリに主眼を置き、3年ぶりぐらいにZephyrus採集に精を出してみたので、その結果について報告する。

1983. 6. 19 (日) アイノミドリシジミ 15♂♂

フジミドリに的を絞って早朝に出かけたが、例によって、活動時間にあたったアイノミドリをネットしたのみ。

6. 20 (月) フジミドリシジミ 12♂♂  
エゾミドリシジミ 1♂

早朝(AM 6:30)、ススキの葉よりフジミドリがたたき出た。すぐ近くに止まることなく、逃げてしまった1個体も10頭以上目撃。

6. 23 (木) ウラミスジシジミ 1♂  
エゾミドリシジミ 1♂

6. 24 (金) ウラクロシジミ 2♂♂  
エゾミドリシジミ 1♂

NISSAN SUNNYに乗った橋場氏を目撃。

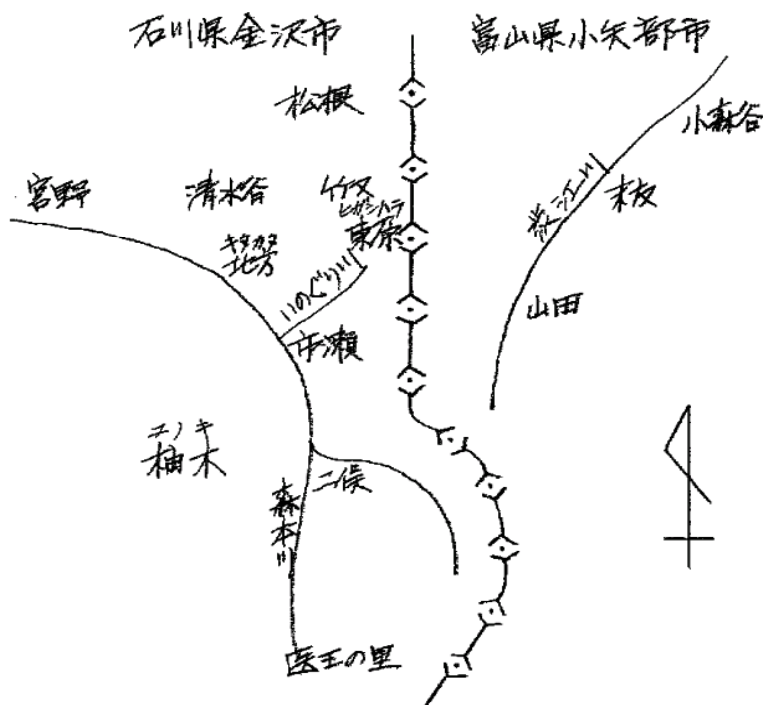
6. 26(甲) アイノミドリシジミ 4♂  
 ジョウザンミドリシジミ 2♂

水色のマツダ・ファミリーに乗った虫ヤらしき人を目撃。

以上の様にフジにぶつかったのは1日だけだったが、夕霧峠付近のブナ(中木)においても何頭かが、たまたま出されたが採集できなかった。フジミドリの個体数も決して少なくはないという感を強くした。

最近の楽しい事

松井 正人



金沢市北部のギフチョウの発生地としては、医王山山系が知られている。おなわち、医王の里二俣、市瀬、東原とつづき、富山県小矢郡市に入って、山田、末友とつづき、小森谷がその最北端となる。過去、ギフチョウの発生地を拡大すべく、松根、竹又、清水谷、北方、柚木、などといった所へ、何度も足を運んでいっているが、食草は全く発見できなかった。

このことから、これまで金沢市北部のギフチョウは、森本川といのぐり川によって隔てられた以南に分存するものと考えていた。ところが、この程かなり離れて、森本川以北の宮野地内山林において、ヒメカンアオイ多数株を発見し、ほんなく葉裏よりギフチョウの卵塊も見つけることができた。



これによって、これまででの考え方は間違っていたし、産地の近くばかり捜している調査方法も変えなければいけないと思った。金沢市北部のギフチョウ調査も、これまでかと思っていた矢先に新しい産地が見つかり、また、他にも見つかる可能性もでてきて、なんだか楽しくてなりません。まるで新婚気分のような感じです。何に増しても楽しいのは、新産地がこのフィールドに近くなって、これからの調査がより容易になった事です。それとパートナーができた事かな。

### 【シリーズ案内と書評】

## 第9回 飛べオムラサキ (講談社)

吉村 久貴

オムラサキは、1957年、日本昆虫学会で選定された「国蝶」であり、翅を広げると約10~12cm、日本のタテハチョウの中で最大種である。

その翅表は、きれいな青紫色で、雑木林の上を悠々と飛び、またクマギなど、カブトムシ、クワガタムシ、スズメバチに負けることなく樹液を吸っている姿には、王者の風格がある。

本書は、雑木林が次々と伐採され、宅地化されていき、オムラサキの生息範囲がせばめられていく中、少しでも一般読者にもオムラサキの生態を知ってもらおうと、国蝶オムラサキを守る会が、非常にわかり易いよう、レイアウトにもいろいろ配慮して編んだ著である。

内容は、ふんだんなくカラー写真を用い、その生態のサイクルが示されているが、卵・幼虫・蛹・成虫とその写真の妙さに驚く。

おもしろい、ほとんどが写真であり、解説は最後に述べられている程度。

「かつて、少年の日に、目をかがやかせてカブト虫や蝶を追いかけた林が、もはや遠い郷愁の林になってしまわないように」と、編者らの願いが込められているように思う。

「飛べオムラサキ」国蝶オムラサキを守る会編

執筆：内城道楽

写真：海野和男

第1刷 昭和56年6月10日 講談社 ¥3,900

《例会の記録》

★'83-12-21(金). 中道宅にて開催。  
出席者、野中勝、松井正人・泰子、中西重雄・朱美、竹谷宏二、金子ニ久、高平五朗、井村正行、川橋英典、吉村久貴、勝海雅夫、松田俊郎、嵯峨井真一郎の14氏。  
竹谷氏撮影の石川県産の蝶類のスライド、松井夫妻撮影のハヌーソンのスライド映写会が開催され、大盛会であった。

★'83-12-25(日). 83年最後の例会を、中道宅にて開催。出席者、竹谷、金子、井村勝海、野中、吉村夫妻、松井夫妻、中西夫妻、嵯峨井の12氏と新会員の山崎喜世氏。  
"新"41, 42, 43号の配布、採卵情報の交換、蝶類の抱卵、etc  
として竹谷宏二氏作製の蝶の写真入りカレンダーの希望者配布があった。

《翔掲載用原稿募集》 183年中に会員の手により集られたニューロッド、新知見が編集人の耳に入っているのにも原稿ができていません。短報でもよいですから是非投稿を!!

目 次

河内村にてフジミドリジミを採卵	吉村 久貴	1
1982年の撮影記録から	竹谷 宏二	1
長野県木曾路原のイタジミ	吉村 久貴	3
ノコメがあった	金子 二久	5
津幡町で Catocala 3種を採集	吉村 久貴	5
釈迦道(何山湯, 谷)でのパニヒカゲの記録	吉岡 泉	6
1983年度 医王山での Zephyrus 採集記録	吉村 久貴	7
最近の楽しい事	松井 正人	8
【シリーズ案内 & 書評】		
第9回 聴べオムラサキ (講談社)	吉村 久貴	9

翔 № 44

1984年1月20日(金) 発行

発 行： 金沢市大場町東871-15 松井正人方・百万石蝶談会  
編集・校正： 吉村 久貴